

焼かないレンガ作りでエコロジーとエコノミーの両立を

バングラデシュのレンガ産業への新たな提案

国際協力機構(JICA)は1月26日、「中小企業連携促進基礎調査」において株式会社エイケン(東京都世田谷区、蜂谷英明代表取締役)が提案する「無焼成レンガの生産を可能とする無機質強化材導入の基礎調査」(バングラデシュ)を採択しました。

バングラデシュでは、建設需要が旺盛で、レンガ焼成窯が国内に約4900箇所あり、そのうちの92%が旧式のためスス等の大気汚染物質を大量に放出しています。特に、レンガ工場が集中するダッカ市北部では、工場雇用者や周辺住民の健康被害や農地汚染が問題となっています。同社製品「ECO5000」は、原料に混ぜるだけで、レンガの強度を確保できる強度強化剤で、現地の土と砂とセメントに同製品を加えるだけで十分な強度が出るため、大気汚染や大量のCO2排出の原因となる焼成工程が不要になります。レンガ工場の多くは、大気汚染対策への設備投資が困難な中小・零細業であるため、本製品導入により焼成工程を省くことで、大気汚染や周辺住民の健康被害等の軽減に貢献することが期待されます。今回の調査では、現地での製品紹介やレンガ工場での需要調査を行う予定です。



ECO 5000 で作った穴空きレンガ



レンガの原料となる ECO5000

本調査は、我が国の中小企業を対象とした「基礎調査」として実施されます。本スキームは、優れた製品や技術力を有する中小企業が途上国に進出することによる開発課題解決の可能性及び ODA 事業との連携可能性を検討するためのもので、検討に必要な基礎情報の収集と海外展開事業計画の策定を目的としています。2016年度第2回は昨年9月に公示を行い、14件が採択されました。今後の契約交渉を経て契約に至ったものから、順次調査を実施します。

参考：(プレスリリース)基礎調査 2016年度第2回公示の採択結果について

URL：https://www.jica.go.jp/announce/notice/fs/ku57pq00001r9v4s-att/fs_160905_result.pdf

【本件に関する問い合わせ先】

JICA 国内事業部中小企業支援調査課 井桁 (案件担当)、橋本 (広報担当)
TEL 03-5226-9283 e-mail : pdtfs@jica.go.jp